

子ども読書支援センターニュース No.185

2019.10.31.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行
TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：令和元年11月5日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《10月のおはなし会で使った本》

『バスがきました』 三浦太郎/さく・え 童心社 2007

『ちびゴリラのちびちび』 ルース・ボーンスタイン/さく ほるぷ出版 2003

『やさいさん』 tupera tupera/さく 学研教育出版 2015

『やさいのおなか』 きうちかつ/さく・え 福音館書店 1997

★第3回新刊児童書閲覧会

○日時：令和元年12月14日（土）13：30～15：30 ○場所：山口県立山口図書館 第2研修室

○対象：公共図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア等 ○定員：40名（要申込み・先着順）

○申込方法：12月13日（金）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

○申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-3, 4歳から>

『まいにちたのしい』 KAKATO/ぶん オオクボリュウ/え ブロンズ新社 2019.8 ¥1300

「ようよう たいよう さんさん おはよう」と朝の挨拶から、「ぐーぐー ぐっすり ずうーずうーずうー おやすみなさい」と夜の挨拶までの一日をラップ調の言葉とユニークな絵で描いた絵本。現在活躍中のラップグループが文を書き、イラストレーションとアニメーションの分野で活躍するアーティストが絵を描いている。リズムを意識しながら声に出して読みたいラップ絵本。

『じゃない!』 チョーヒカル/作 フレーベル館 2019.8 ¥1400

最初のページにあるのは、どこからどうみても一本のきゅうり。でもページをめくると、なんと中身はバナナ。お次は、みかん…じゃなくて、トマト! えっ? いちご…じゃなくて中身はあさり? 体や物に、リアルなペイントをする作品で注目される作者による不思議な絵本。ページをめくるとびに固定概念を覆され、次の展開を自由に想像する楽しさと面白さを味わえる。

<絵本-5, 6歳から>

『サン・サン・サンタひみつきち』 かこさとし/著 白泉社 2019.9 ¥1300

地球の北の果ての北極の氷の下に、誰も知らない大きな工場と秘密のロケット基地があった。工場では、世界中から運びだしたゴミやガラタから、たくさんのおもちゃが作られていた。ある朝、工場のモーターや歯車が止まり、働いていた人たちが続々と出てきて氷の広場に並び…。大人も子どももワクワクする夢いっぱいのクリスマス絵本。1986年に刊行された本を再編集して復刊。

<絵本-小学校低学年から>

『ナイチンゲール』 アンデルセン/作 カンタン・グレン/絵 松井り子/再話 岩波書店 2019.8 ¥1600

昔、中国の皇帝が暮らす御殿の広い庭に1羽のナイチンゲールがすんでいた。小さな鳥の歌に皆が聞きほれた。その存在を知った皇帝は、御殿につれてくるよう家来に命じ、皇帝の前で歌わせる。その美しい歌声に皇帝の目からひとりてに涙があふれる。御殿にこどもまることになったナイチンゲールだったが…。やわらかい色彩で描かれた中国の衣装や調度品も美しいアンデルセン童話の絵本。

<絵本-小学校中学年から>

『だいすきな先生へ』 デボラ・ホプキンソン/文 ナンシー・カーペンター/絵 松川真弓/やく 評論社 2019.8 ¥1400

親愛なる先生。私を覚えていらっしゃいますか。2年生のとき、学校が大嫌いで困ったことばかりする私を、先生はいつも優しく見守ってくださいました…。そのとびきり愉快な1年間の出来事を描く。明日から教師としてスタートする少女が、恩師に向けて書いた手紙形式の絵本。作者自身の当時の先生がモデルとなっている。年を重ねても色あせない、先生と生徒の素敵な繋がりを描く。

『チェックポ』 イ・チュニ/ぶん キム・ドンソン/え おおたけきよみ/やく 福音館書店 2019.9 ¥1500

チェックポとは、教科書や弁当箱を包んで持ち運びに使う風呂敷のような布のこと。オギは、おばあちゃんお手製のチェックポを使っていたが、友達のだひの赤いおぼんがうらやましくて、けんかになってしまう。おばあちゃんとの思い出が詰まったチェックポが、かけがえのないものだと気付いたオギ。チェックポのお陰でだひとも仲直りをする。韓国の伝統手芸にちなんだ心温まる絵本。

<読み物-小学校低学年から>

『ヤナギ通りのおばけやしき』 ルイス・スロポドキン/作 小宮由/訳 瑞雲舎 2019.9 ¥1500

「ヤナギ通りのおばけやしき」と呼ばれる1軒のお屋敷。誰も住んでおらず垣根もぼうぼうで、暗くて古い建物だった。ある年のハロウィンの夜、このお屋敷の前を通りかかった子どもたちは、灯りがともっていることに気づく。おそろおそろ「いたずらか、おかしか」と叫んでドアを開けると、そこには優しいおばあさんと手品の上手なおじいさんが。コルデコット賞受賞者による作品。

『すみれちゃん、おはよう!』 ばんひろこ/作 丸山ゆき/絵 新日本出版社 2019.8 ¥1300

もうすぐ1年生になるみさきは団地に引っ越してきたばかり。弟と階段を降りた時、コンクリートの割れ目から、芽を出し花を咲かせているすみれを見つける。ここへ来て初めての友だちを見つけた姉弟は、「すみれちゃんお ふまないで」と書いてすみれを守ることに。翌朝、見ると「はい」とお返事が。いったい誰の仕業なの? 引っ越し後の不安な気持ちを吹き飛ばす、心温まるお話。

『フルーツふれんずスイカちゃん』 村上しいこ/作 角裕美/絵 あかね書房 2019.9 ¥1200

頭がスイカのスイカちゃんの悩みは大きな顔。小さな顔のイチゴちゃんみたいになりたいのに…。そうだ、リボンを付けたらかわくなるかも。粘着ローラーでお顔をこころしたら、小顔になれるかも。でもやることなすことうまくいかないスイカちゃん。その様子を見ていたイガグリくんが、スイカちゃんを応援してくれるようになった。もって生まれた個性を認める気持ちになれるお話。

<読み物一小学校中学年から>

『犬がすきなぼくとおじさんとシロ』 山本悦子/作 しんやゆう子/絵 岩崎書店 2019.9 ¥1100

犬が大好きな小4の海斗のうちでは、お母さんの反対もあって、なかなか犬を飼うことにならない。ある日、海斗は、川土手でリードのついた大きな犬に出会う。この人懐っこい犬は、ホームレスのおじさんの犬だった。ぼくならちゃんとご飯を食べさせてお世話できるのに。雪の降る日、遂に海斗はうちにこの犬を連れて帰った…。『飛ぶ教室』に掲載されたものを加筆修正した作品。

<読み物一小学校高学年から>

『貸出禁止の本をすくえ!』 アラン・グラッツ/著 ないとうふみこ/訳 ほるぷ出版 2019.7 ¥1500

エイミー・アンは、本好きの小4の女の子。ある放課後、学校の図書館へ行くと、大好きな本がいつもの棚に見当たらない。その本が小学校の図書館にふさわしくないという理由で、貸出禁止になったのだ。納得のいかないエイミーは、多くの子どもたちがその本を読めるように、自分のロッカーを「ロッカー図書館」にして、貸出を始める。図書館の在り方について、深く考えさせられる作品。

『秘密に満ちた魔石館』 廣嶋玲子/作 佐竹美保/絵 PHP 研究所 2019.8 ¥1000

魔法使いの師匠の下へ弟子入りしているハキーム。11年たっても立ち立させてもらえないことにしじれを切り、師匠の、未来が覗ける水晶を手にとり都へ。占い師として大成功し財を成したハキームだったが、だんだんと水晶の中が濁り始める。ある時「濁ったのはおまえの自身の目だ」と師匠の声が聞こえ…。9つの宝石にまつわる短編集。話の最後に宝石の説明あり。

<読み物一中学生から>

『きみの存在を意識する』 梨屋アリエ/作 ポプラ社 2019.8 ¥1500

ディスレクシアのグレーゾーンにいるひすい、女にも男にも分けられたくない理幹(りさ)、合理的配慮を要求する心桜(こはる)、同級生の姉と生活している養子・拓真、過食気味の小晴。同じ中学校に通う2年生たちが、自分の感じる違和感や困り感をぶつけ合いながら、互いに理解を深めていく。思春期の子供たちの切ない心情を、それぞれの視点で描いた連作の短編集。

『飛ぶための百歩』 ジュゼッペ・フェスタ/作 杉本あり/訳 岩崎書店 2019.8 ¥1400

盲目ながら、お婆と山登りを楽しむルーチョ。中学を卒業したこの夏、アルプス山脈にあるドロミテ溪谷にやってきた。その断崖絶壁に巣を作るワシから、密猟者がひなを盗んだ!ルーチョは、無口な少女キアラに反発しながらもひなを助けようと…。意固地になっていた盲目の少年の葛藤と成長を描く。イタリア児童文学界最高の賞であるストレーガ・チルドレン賞(2018年)を受賞。

<ノンフィクション一小学校低学年から>

『鳥のふしぎ①くちばし いろいろなすがたをしているのはなぜ?』 平野敏明/監修 小堀脩男/企画 理論社 2019.9 ¥2300

太くてがっちりしたくちばしに、細くて尖ったくちばし。季節で色が変わっているくちばしもあるよ。どんな風に使うのかな?どうしてそんな形なの?生息環境に適するように、進化してきた鳥のくちばしの形やはたらきを、多くの写真と易しい言葉で解説。日本で見られる鳥の体の部分に注目して、形が多様さを紹介するシリーズ。「②はち」 「③あし」の全3巻。

<ノンフィクション一小学校中学年から>

『おばあちゃんの小さかったとき』 おちとよこ/文 ながたはるみ/絵 福音館書店 2019.9 ¥1600

ゴムとびこリリアン編み、陣取りにおままごと。おばあちゃんはいさよ頃、どんなことをして遊んでいたの?1950年代から1960年代の子どもたちの暮らしを細やかに伝える、祖父母の世代と孫の世代をつなぐ本。1988年発行『母さんの小さかったとき』を加筆・修正し、題名を変えて作り直したもの。『おじいちゃんの小さかったとき』も同時刊行。

<ノンフィクション一小学校高学年から>

『こども六法』 山崎聡一郎/著 伊藤ハムスター/絵 弘文堂 2019.8 ¥1200

今、いじめや虐待に悩んでいる子どもに、法律という楯を知ってもらうための本。たくさんある法律の中から、子どもにも関係のある法律、知っておいたほうがよい法律をピックアップし、イラストと、子どもたちが普段使っている易しい言葉で状況を表す。筆者は、小中学生の頃に、いじめの加害者と被害者の経験あり。クラウドファンディングで資金を集め、出版を実現した1冊。

『義足と歩む ルワンダに生きる日本人義肢装具士』 松島恵利子/著 汐文社 2019.8 ¥1500

ルワンダで義肢製作所を作り、無料で義肢を配布する活動が続ける日本人義肢装具士、ルダシグワ真美氏。足の不自由なルワンダ人の夫のために、義肢装具の技術を習得したことをきっかけに、ルワンダ大虐殺により手足を奪われた多くの人々のために奔走する様子を伝える。また、内戦や現在の様子を丁寧に説明し、ルワンダや隣国のブルンジを理解するのに大変役立つ1冊。

<ノンフィクション一中学生から>

『かくれ家のアンネ・フランク』 ヤニー・ファン・デル・モーレン/作 西村由美/訳 岩波書店 2019.8 ¥760

13歳から15歳にかけて綴った『アンネの日記』で世界的に名前を知られるアンネ・フランク。隠れ家で綴った日記を出版し、作家になることを彼女がどれほど切望していたか、どんな家庭で育ち、どんな日常を送っていたのか、その短い生涯を日記や資料、事実に基づいて小説風に描く。各章の初めにはその時代背景やユダヤ人迫害の様子が簡潔に紹介され、理解を助ける。岩波少年文庫。

『農業高校へ行こう!』 全国農業高等学校長協会/監修 家の光協会 2019.8 ¥1600

いま、農業高校が熱い!世界初の高校生によるグローバルGAPを取得したリンゴの生産、ご当地グルメの開発など、畜産や養蜂、栽培や食品加工などに取り組む全国の農業高校の生徒たちの生き生きとした様子を、全頁カラーで紹介する。山口県では、田布施農工高等学校の酒造蔵部の酒造りの取り組みが紹介されている。ウド鈴木など農業高校で学んだ人からのメッセージや特産品も掲載。

<研究書>

『みんなで学ぼう学校教育と著作権 著作権の基本から指導まで』 森田盛行/著 全国学校図書館協議会 2019.7 ¥2700

著作権って何?学校現場に必要な著作権の基本的知識だけでなく、子供たちへ著作権について指導する「著作権教育」の実践事例も示す。作文コンクールへ出品した作文をHPへ掲載するには?自校で作成した資料をサーバーに保存し共有化するのは?など、具体的な事例を挙げたQ&Aも役立つ。教員や学校図書館に関わる人が、最低限理解しておくべき内容がわかりやすくまとめられている。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。